本部封鎖から全学スト＝全学解放へ転化せしめよ！

本部封鎖貫徹！
学館斗争勝利！

全てのクラス・サークル・諸斗争委員会・諸個人の自己表現（＝要求）をもってストライキ決議をあげよ！

早稲田大学の全ての学友諸君！

先進的学友によって斗われた本部封鎖は、今日21日で5日目に入り、我々の斗いは今や全く新らしい段階を向かえつつあるということを先ず初めに訴えたい。　即ち、本部封鎖によって切り開かれた情況は、今、我々に次なるより高次な斗いを突きつけている、ということである。

学校当局は、17日、大衆団交を中止するといっておきながら、全く破廉恥にも、翌18日にはケロリとした顔で大衆団交（？）を行なっていった。　しかも、革マル派にとっては、こうした当局の、学生大衆を小馬鹿にしきった態度をむしろ自らの利益として、全く形式的な集会を開いていったのである。

学友諸君！　我々は、我々を指導すると称していながら、実は、我々の運動を腐敗と汚辱の中に投げ込もうとする一部の醜悪な運動と、はっきりと訣別しなければならない。

そうした、我々の生き生きとした活動を圧殺せんとする"大衆団交"を実質的に粉砕しつつ、この間の我々の斗いは斗われていた。

今、我々は、より広汎な斗いの独自的組織化を図りつつ、官僚ストライキではなく、真に我々学生大衆ひとりひとりが自らの主張を行ない、しかもその主張を行動に表わして行くことによって、全く新らしい形での大衆ストライキ ──→ 全共斗の強固な確立 ──→ 全学解放、といったダイナミックな運動を創りあげていかなければならない。
これこそが、次なる我々の斗いのステップである。

連日本部前集会を創りだそう！

より深化された、より広汎な討論を創り出そう！　そして、それぞれの討論の段階（＝社会性）で要求項目を創り出そう！　そして、その要求項目は、自らの内的必然性から生まれるものとして、決してどこからかの借り物を使うな！

そうした内的必然性としての要求をもってストライキ決議をあげよう！　そして、そのストライキ決議をいかなる革マル派の抑圧をもはねのけつつ、ビラ、立看板等で全ての学友にアピールせよ！

そして、要求項目 ══ 行動指標の一致するところをお互いに発見しつつ、行動委員会、斗争委員会の連合体を創り出そう！　斗いの中で、討論のなかで、より深化された要求（＝異なった段階の社会性）を生み出せ！

学友諸君！　これまでの一切の学生ストライキは、自治会執行部からの「提起された方針」を討論して、それに"納得"したらストライキに入るといったものであった。

そして、ポツダム自治会の発想（市民主義的発想）のまさに典型として、スト権を取るための投票を行ない、その投票によってストライキを最終的に決定して行くといったものであった。

こうした見せかけの民主主義をフルに活用して、秩序的に事を処理しようとして来、またしようとしているのが民青、革マルの運動である。そうした運動の結果としての犯罪性は、東大斗争における民青を見ればはっきりとわかるであろう。

~~しかも、同時に告発されるのはまた~~、我々でもあり、そうした投票によって賛成にしろ、反対にしろストライキに何らか"関わった"という考えを、我々ははっきりと捨てなければならない。

我々は、誰かに何かを仮託することの幻想を、はっきりと打ち破らなければならない！　それは幻想に幻想を上乗せするだけだ！　自己はかけがえのない自己であり、誰かに置き換えられるものではないのだ！　我々は、「現在の我々にとって、これが自己の一切だ！」と考えられる要求を示して行かねばならない！　そこに込められた内的必然性は、必ず自己の行動を保証するものとしてなければならぬ。　それは、自らの思想にかかわることである。

一切の情念をその要求の中に叩き込め！　そして斗いの中で、それを深化し、自己と運動を不断に変革していこう！　そして、そうしたクラス、サークル、諸個人斗争委員会、諸団体の連合体としての全共斗を拡大し、発展せしめよ！　そのさまざまな要求をもって、4．24日大集会の中で、全ての人々の大討論会を作り出そう！

全く新らしい広場の直接民主主義を創り出し、豊かなイメージの学館 ══ 早大斗争を全学生の参加でかちとって行こうではないか！

○官僚ストライキを山猫ストライキ ─→ マッセンストライキでのり越えよ！
○全ゆる要求を持ち寄り、4．24本部前大集会に結集せよ！

早大斗争全学共斗会議